人新世を耕す

自家米を焼畑で生産
不作でも1・5倍以上に

帯広畜産大学　筒木潔名誉教授

②

マレーシアのサラワク州の焼畑民はほとんど2次林（雑木林）のみを利用して、十分な休閑期間を使って焼畑を行い、陸稲、トウモロコシ、サツマイモ、タピオカや多様な野菜類をそれぞれの作物に適した土地で栽培している。陸稲に関して言えば1年に138日から175日の労働によって、不作年でも年間家族消費量の1・5倍以上の、豊作年には3倍以上の米を生産することができる。

栽培期間は1年のみ

焼畑として利用される期間は通常1年間のみであり、その後は休閑と地力回復のための2次林として管理され10年近く放置される。森林の側から見れば、10年に一度焼畑として利用されることにより、地上部の養分が土壌中に還元されるとともに、酸性や硬度などの土壌の好ましくない性質が改良される。有用な樹種が選抜・植林され、より価値の高い森林として育成されることになる。

また、焼畑の周りの2次林や1次林（原生林）は狩猟、漁労、採集の場であり、森の住民にとって米以外の食糧需要と栄養補給の大きな部分をまかなっており、482種類もの天然の植物が食料、繊維、飼料、薬、建設資材、染色材料、装飾、燃料、狩猟用の毒、防虫剤、工芸材料、柵の材料として利用されている。